令和４年度第２回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

配　付　資　料

○ 令和４年度 伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿・・・・・・・・・Ｐ１

○【資料１】令和４年度第１回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会の概要・・　Ｐ２

○【資料２】伊勢志摩地域　中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）・・・・　Ｐ５

○【資料３】伊勢志摩地域の中学校卒業者数（予測）と県立高等学校募集定員・・　Ｐ６

○【資料４】学科別募集定員の割合（県立高等学校全日制）・・・・・・・・・・・　Ｐ７

○【資料５】伊勢志摩地域の各県立高等学校について・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ９

○【参考資料１】高等学校における遠隔授業について・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ20

○【参考資料２】令和２～３年度協議会での意見・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ22

○【参考資料３】伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて・・・・・・　Ｐ26

令和４年度　伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会委員 名簿

Ｎｏ		所属及び名前	本年度出席委員
1	学識経験者	三重大学　大学院生物資源学研究科　教授　坂本　竜彦	○
2	地域有識者	亀谷内科胃腸科　院長　亀谷　章	○
3		鳥羽商工会議所　専務理事　清水　清嗣	○
4		志摩市商工会　事務局長　竹内　厚史	○
5		度会町商工会　事務局長　冨内　伊佐雄	○
6	市町教育委員会教育長	伊勢市教育委員会　教育長　岡　俊晴	○
7		鳥羽市教育委員会　教育長　小竹　篤	○
8		志摩市教育委員会　教育長　舟戸　宏一	○
9		度会町教育委員会　教育長　中村　武弘	○
10		南伊勢町教育委員会　教育長　劒山　成実	○
11	県立高等学校長代表	県立南伊勢高等学校　校長　角屋　貴久	○
12	小中学校長代表	伊勢市立港中学校　校長　清水　能人	○
13		鳥羽市立加茂中学校　校長　西井　潔	―
14		志摩市立東海中学校　校長　寺本　一夫	○
15		大紀町立大宮中学校　校長　辻井　良孝	―
16	小中学校ＰＴＡ代表	伊勢市ＰＴＡ連合会　代表　浦田　宗昭　（伊勢市立厚生中ＰＴＡ）	○
17		鳥羽市ＰＴＡ連合会　代表　水川　敬善　（鳥羽市立加茂中ＰＴＡ）	○
18		志摩市ＰＴＡ連合会　代表　大西　正和　（志摩市立東海中ＰＴＡ）	○
19		度会郡ＰＴＡ連絡協議会　代表　東谷　雅人（玉城町立外城田小ＰＴＡ）	○
20	高等学校ＰＴＡ代表	南勢地区高等学校ＰＴＡ連合会　代表　藤原　達郎（県立水産高校ＰＴＡ）	○
21	小中学校教職員代表	伊勢市立明倫小学校　教諭　坂口　直矢　（伊勢市　教員代表）	○
22		志摩市立東海小学校　教諭　里中　洋典　（鳥羽・志摩地域　教員代表）	○
23		南伊勢町立南勢中学校　教諭　加藤　隆彦　（度会・南伊勢地域　教員代表）	―
24	高等学校教職員代表	県立伊勢工業高等学校　教諭　三橋　哲夫　（県立高等学校　教員代表）	○

資料１

令和４年度第１回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会（６／８）の概要

１　**日時**　　令和４年６月８日（水）19 時 00 分から 21 時 00 分まで

２　**場所**　　伊勢庁舎４０１会議室

３　**概要**

15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、伊勢志摩地域の県立高等学校の総学級数は令和 19 年度には現在の 32 学級から 18～21 学級となることが見込まれることから、令和４年３月に策定された「県立高等学校活性化計画」や当協議会でのこれまでの協議をふまえ、これからの伊勢志摩地域における県立高等学校の学びと配置のあり方について協議しました。

主な意見は次のとおりです

＜これからの協議に係る考え方について＞

○　協議会の目的は、その設置要綱にあるように「伊勢志摩地域における高等学校の特色化・魅力化を図るとともに、生徒にとって魅力ある学習環境を整備する」ためであり、定員が埋まることだけでなく、この目的を達成することを大事にしていくべきである。

○　前計画期間中は、１学年３学級以下の高校をどう活性化するかを中心に協議し、学校も地域も取り組んできたが、なかなか生徒が集まらない現状をふまえ、３学級以下の高校は統合についても協議を行うとなった。これからの協議については、３学級以下の高校だけではなく、伊勢志摩地域全体の高校で学びのあり方を考えていく必要がある。

○　これまでの協議では、３年後、５年後のことを考えてきたが、これからの地域の高校のあり方を協議するには、今回の「県立高等学校活性化計画」に明記された 15 年後を見据えたグランドデザインの視点から議論することが非常に大切である。また、「入学者が２年連続して 20 人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とする」や「１学年３学級以下の高等学校は統合についての協議も行う」などが明記されたことも、協議会としても重く受け止め、今年度中に一定の結論をまとめる必要がある。

○　伊勢市内の高校の在り方について協議を行う場合は、授業料が実質無償化となった私立高校のあり方も含めながら議論していく必要がある。伊勢市内の普通科や専門学科の高校関係者や私立高校の状況に詳しい方と情報交換をすることで、伊勢志摩地域全体の高校再編をどうしていくかの議論を深めるべきだ。

○　地元を代表した委員として、定員を満たさない学校が地元に２校あることは、苦しく統廃合の対象になるという危機感は持っている。伊勢志摩地域全体のことを考えなければならないのは重々わかっているが、単に数の論理により統廃合を行うのではなく、小規模校でも残さなければいけない学校もあるという視点も持ちながら協議すべきだ。

＜15 年先を見据えたこれからの伊勢志摩地域の学科や学びについて＞

○　全体の学級数が減少していく中、この地域から学習意欲の高い生徒が他地域へ流出することを防ぐためには、当地域の進学校の定員を大きく減らすことはできない。また、学科の配置については、この地域の専門的な学びを残しながら、いかにバランスの取れた普通科、専門学科、総合学科の配置にするかの議論が必要となる。

○　この伊勢志摩地域の将来の担い手を育成していくためには、この地域で生まれ育った若者が地域に残って活躍したり、一旦地域外に進学や就職しても地域に戻ってきたりすることが大事であり、そのためにも学校教育は大きな役割を果たしている。これからの地域を担う若者を育てるうえで大切なことは、小規模校で取り組んでいる地域での学びを、伊勢市内の専門高校や大学進学を目指す普通科高校においてもより充実し、小中学校で行われている「ふるさと教育」などの地域学習とともに、地域の小中高全体が目的を共有して教育を行うことである。

○　統廃合やむなしとなった場合には、たとえば地域の工業高校と商業高校の統廃合だけでなく、場合によっては他地域の同一の専門学科同士での統廃合を考えるなど、当地域だけでなく視野を広げた議論が必要である。

○　今後の少子化の中で、他地域を含めた専門学科の配置については、工業高校同士や商業高校同士の統廃合や拠点化の考えもあると思うが、地域に専門的な学びがなくなることにつながるため、今後も協議が必要である。

＜ＩＣＴの活用について＞

○　分校化、校舎制の議論や小規模校を残すかなどの議論をより具体的に進めるにためには、小規模校におけるＩＣＴの活用状況や通学時間など、多面的な要素を整理して協議していく必要がある。

○　１学級 40 人という学級編成についても、ＩＣＴの活用によって、たとえば５人の学びをいくつかの学校と繋ぐ方法など、柔軟に考えていく必要がある。

○　ＩＣＴを活用した遠隔授業は、専門的な知識を吸収する場合には効果的だが、本来の学校教育では、対面での授業が大変重要である。

○　授業でのＩＣＴの活用については、通信環境も整い、子どもたちも慣れてきてい

るため、進んでいるものの、実際の現場ではやはり授業の「熱」が子どもたちに伝わりにくいと感じている。

○　子どもたちの成長には、人と人との交わりが大事であり、仮にＩＣＴの活用がさらに進んだとしても、小規模校を維持していく理由にはならないだろう。

○　アンケート結果からもわかるように、高校生のタブレット使用にかかるニーズの中心は、理解できるまで繰り返し学習できるところにあり、遠隔授業での活用というところにはないのではないか。小学校現場でコロナ禍に遠隔授業を行ったが、「やっぱり教室が楽しいよね」との子どもたちの声があった。ＩＣＴを活用して様々な人と繋がることは非常に意味のあることではあるが、その活用方法については、まだこれから実践を積み重ねていく必要がある。

＜その他＞

○　活性化計画の中にあるキャリア教育の推進については、高校生が働く意義を自覚していくためにも非常に大切である。各高校には特別な支援が必要な生徒が一定数いることから、単に学力の向上だけでなく、人間性の育成の観点からも就業支援を含むキャリア教育を推進してもらいたい。

○　子どもたちが幸せに学ぶ場とは、地域や地域の人から学ぶことが基本である。対面で授業をすることが一番だと思うが、通信制高校にたくさんの生徒が流れている現状や、多様化している生徒のニーズに応えるためには、学校独自の学びをより特色化し、魅力を高めるとともに、中学生や保護者にわかりやすく示していくことが大切である。

○　通信制高校への進学が増えていることについては、中学校の進路指導も一つの要因ではないか。

伊勢志摩地域　中学校卒業者数の推移と予測（含社会増減）

令和４年５月１日 教育政策課調べ

資料2

		H 15.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 卒業	R 5.3 現中3	R 6.3 現中２	R 7.3 現中１	R 8.3 現小６	R 9.3 現小５	R 10.3 現小４	R 11.3 現小３	R 12.3 現小２	R 13.3 現小１
伊勢市	卒業者数	1,510	1,170	1,087	1,057	1,082	1,127	972	1,030	999	1,030	975	900	955	912
	前年度対比			-83	-30	25	45	-155	58	-31	31	-55	-75	55	-43
	R4.3対比						45	-110	-52	-83	-52	-107	-182	-127	-170
度会郡	卒業者数	552	369	358	308	315	337	311	319	292	305	263	272	279	288
	前年度対比			-11	-50	7	22	-26	8	-27	13	-42	9	7	9
	R4.3対比						22	-4	4	-23	-10	-52	-43	-36	-27
鳥羽市	卒業者数	294	140	132	149	143	122	105	119	110	98	95	107	83	100
	前年度対比			-8	17	-6	-21	-17	14	-9	-12	-3	12	-24	17
	R4.3対比						-21	-38	-24	-33	-45	-48	-36	-60	-43
志摩市	卒業者数	653	400	389	313	339	342	335	287	315	298	239	282	273	249
	前年度対比			-11	-76	26	3	-7	-48	28	-17	-59	43	-9	-24
	R4.3対比						3	-4	-52	-24	-41	-100	-57	-66	-90
小計	卒業者数	3,009	2,079	1,966	1,827	1,879	1,928	1,723	1,755	1,716	1,731	1,572	1,561	1,590	1,549
	前年度対比			-113	-139	52	49	-205	32	-39	15	-159	-11	29	-41
	R4.3対比						49	-156	-124	-163	-148	-307	-318	-289	-330
県内合計	卒業者数	20,468	16,811	16,489	15,777	16,244	16,044	15,880	15,607	15,433	15,225	14,717	14,358	14,053	14,006
	前年度対比			-322	-712	467	-200	-164	-273	-174	-208	-508	-359	-305	-47
	R4.3対比						-200	-364	-637	-811	-1,019	-1,527	-1,886	-2,191	-2,238

伊勢市内高校（県立全日）	学級数（募集）		26	26	24	24	
	欠員		2	15	3	0	－
伊勢以外高校（県立全日）	学級数（募集）		10	8	8	8	
	欠員		84	77	117	129	－
伊勢地区高校（県立全日）	学級数（募集）		36	34	32	32	
	欠員		86	92	120	129	－
県内（県立全日）	学級数（募集）		293	285	271	274	
	欠員		192	339	325	324	－

（私立、高専入学者の状況）

皇學館	募集		320	320	315	315	
	入学者数		336	378	323	353	－
伊勢学園	募集		220	220	220	230	
	入学者数		243	245	283	274	－
鳥羽商船	募集		120	120	120	120	
	入学者数		122	126	128	120	－
３校の欠員数（合計）			-41	-89	-79	-82	－

（参考）

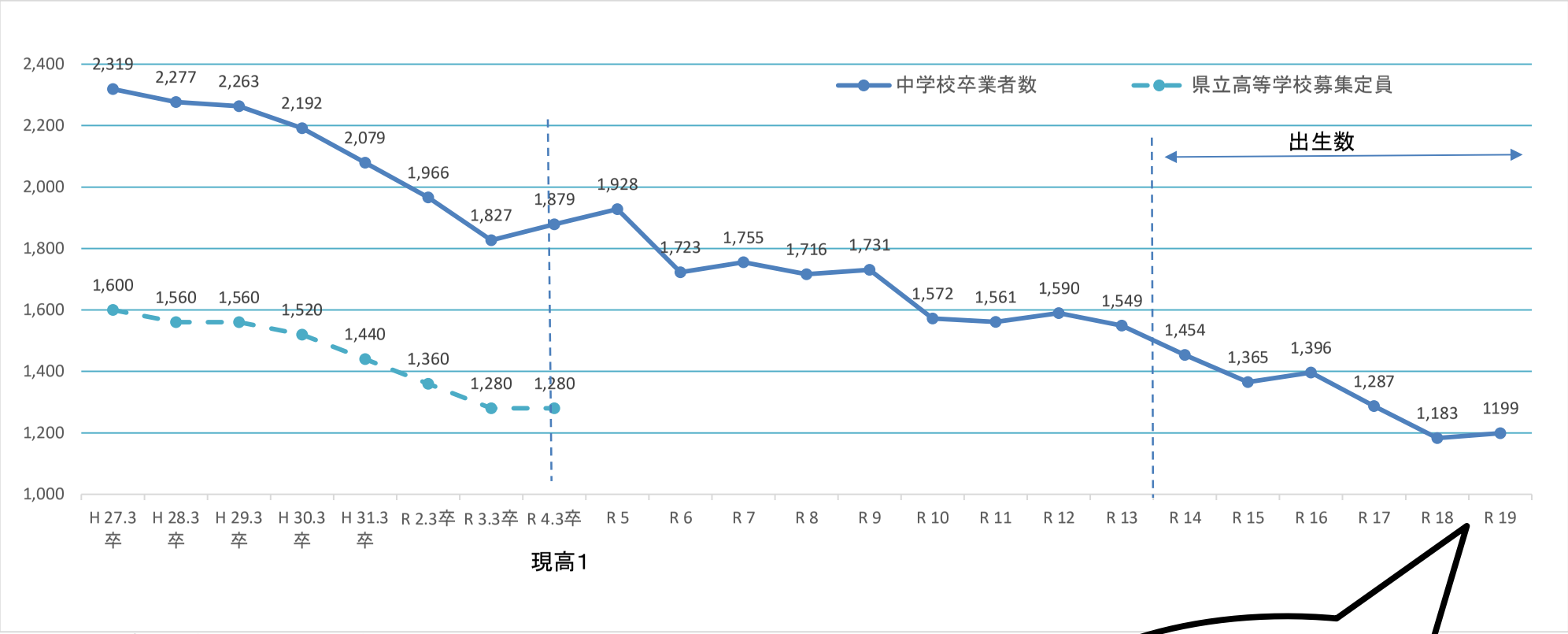
三重	募集		530	530	530	540	
	入学者数		591	624	548	584	－

※欠員の（－）は、定員を超過した入学者数を示す。

伊勢志摩地域の中学校卒業者数（予測）と県立高等学校募集定員

資料３

※R13年度以降は地域の出生数を記載



伊勢志摩地域の出生数

	H27年度出生 現小1	H28年度出生 5～6才	H29年度出生 4～5才	H30年度出生 3～4才	R1年度出生 2～3才	R2年度出生 1～2才	R3年度出生 0～1才
伊勢市	935	864	814	883	811	761	744
鳥羽市	108	109	94	98	83	65	88
志摩市	258	240	227	209	205	177	167
度会郡	273	241	230	206	188	180	200
合　計	1,574	1,454	1,365	1,396	1,287	1,183	1,199

令和19年度　（15年後）
伊勢志摩地域県立高等学校
募集定員総数の見込み

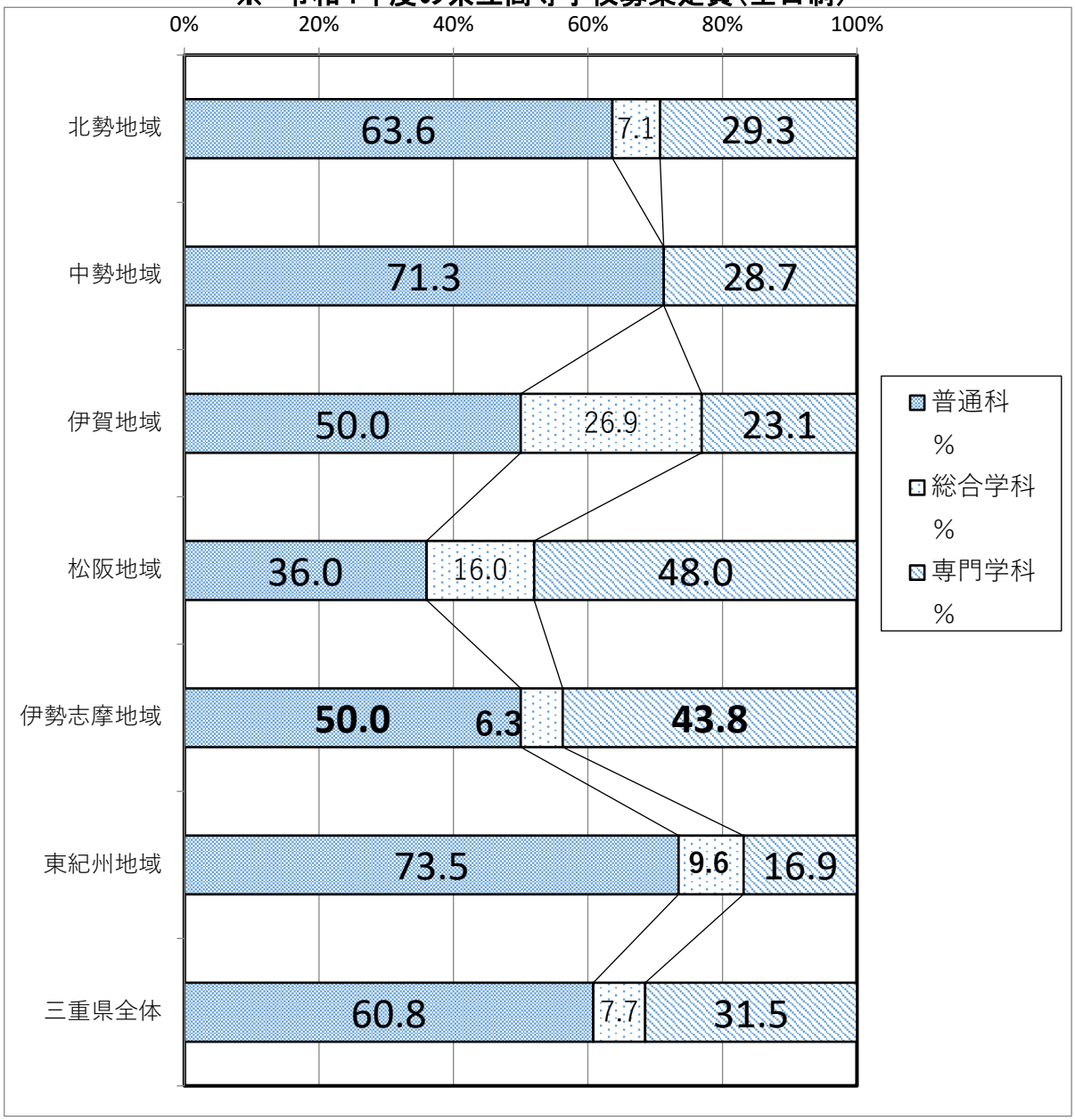
18～21学級規模

学科別募集定員の割合（県立高等学校全日制）

資料４－①

	普通科 %	総合学科 %	専門学科 %
北勢地域	63.6	7.1	29.3
中勢地域	71.3	0.0	28.7
伊賀地域	50.0	26.9	23.1
松阪地域	36.0	16.0	48.0
伊勢志摩地域	**50.0**	**6.3**	**43.8**
東紀州地域	73.5	9.6	16.9
三重県全体	**60.8**	**7.7**	**31.5**

※　令和4年度の県立高等学校募集定員（全日制）

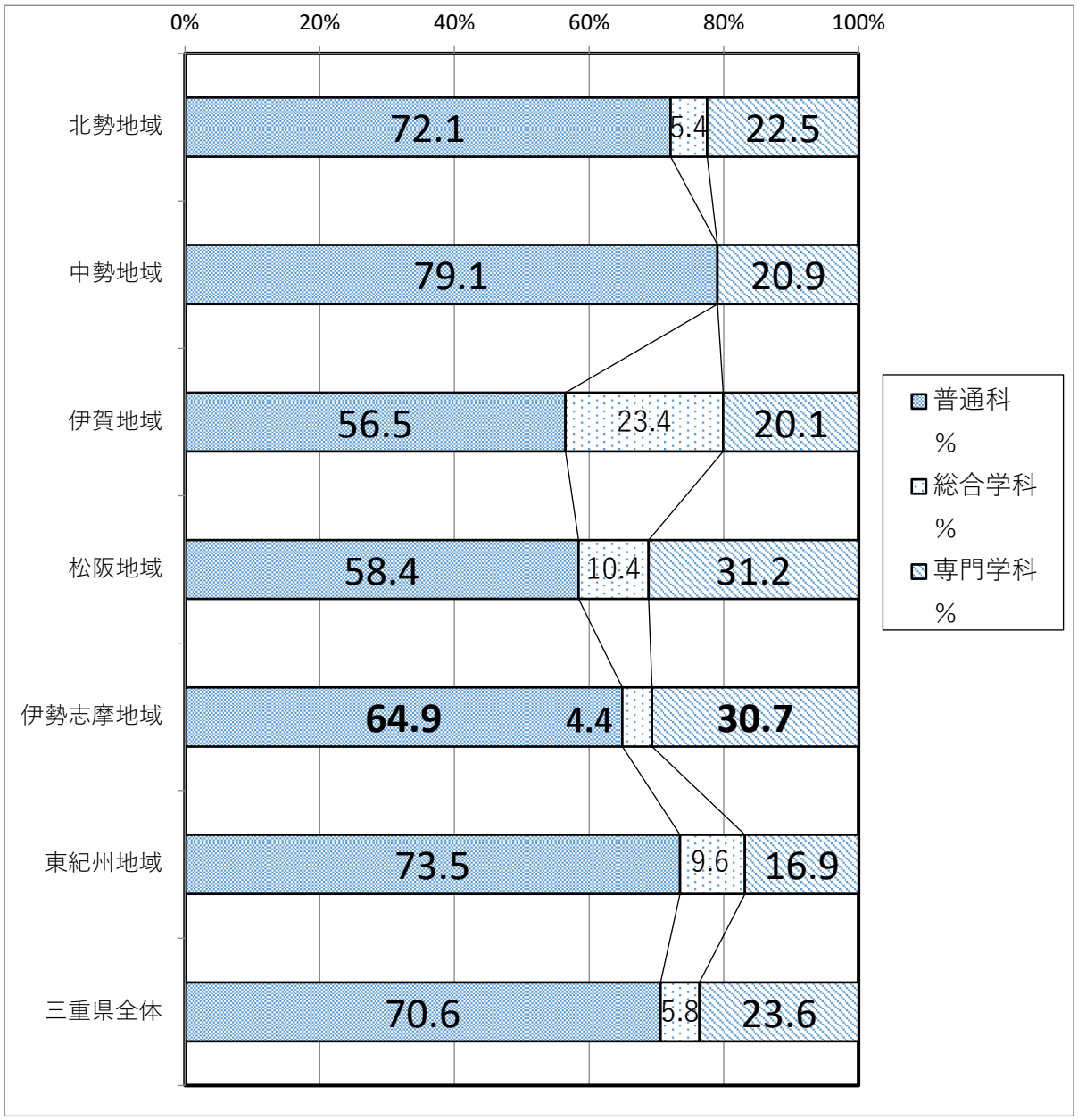


学科別募集定員の割合（県立私立全日制）

資料４－②

	普通科 %	総合学科 %	専門学科 %
北勢地域	72.1	5.4	22.5
中勢地域	79.1	0.0	20.9
伊賀地域	56.5	23.4	20.1
松阪地域	58.4	10.4	31.2
伊勢志摩地域	**64.9**	**4.4**	**30.7**
東紀州地域	73.5	9.6	16.9
三重県全体	**70.6**	**5.8**	**23.6**

※　令和4年度の県立および私立高校の募集定員（全日制）



資料５

令和４年度　宇治山田高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

○自主性を尊重し、互いに協力し合い高め合うなかで、知性と教養、豊かな人間性を育み、進路希望を実現する学校

２　学校の特色　（普通科５学級）

◎伝統を守りながらも新しい取組を推進します。

○創立 123 年の歴史と伝統ある普通科高校です。校訓は「自主自律」です。
○勉強とクラブ活動の両立（文武両道）をめざします。
○運動部、文化部ともに、熱心に活動し、実績を残しています。令和２年度は、全国大会に囲碁部が出場しています。
○各分野で活躍・貢献する多才な卒業生（映画監督、詩人、プロ野球選手等）を多数輩出した学校です。
○前期選抜を実施し、複数回の受検機会を設けており、また、例年受検者数が募集定員数を上回る、受検希望者の多い学校です。（学校行事も大いに盛り上がる、明るい雰囲気の楽しい学校〔生徒アンケート 95%〕）
○前期入学の２クラスは、2・3 年生で選抜クラスとして再編成します。
（再編成時に生徒入れ替えあり。）
○令和４年度から実施の学習指導要領を踏まえた新たな教育課程の編成により、柔軟な科目選択ができます。

◎「充実した授業」と「きめ細やかな丁寧な指導」で、生徒一人ひとりの進路希望実現をめざします。

○県内トップクラスの授業時間数（50 分×週 33 コマ）。質の高い丁寧な授業を行っています。
○英語・数学等で少人数・習熟度別授業を実施しています。
○山高は「面倒見のよい高校」です。一人ひとりの生徒の状況に合わせた細やかな指導や丁寧な相談対応等、きめ細やかな進路指導をしています。（安心して学習できる学校〔生徒アンケート 93%〕）
○1・2 年時の複数回の面談で、生徒の進路希望にあった選択科目を選択できます。
○土曜日や長期休業中に希望者対象の進学課外授業を行っています。
○自習室を整備するなど、自主的に勉強できる教育環境を整えています。

◎多様な機関と連携した学びに取り組んでいます。

○地域の課題をテーマにした探究活動を行っています。
（行政、リゾート施設等をフィールドにした調査・研究。伊勢市高校生議会への参加）
○令和４年度から、県事業「オンラインとリアルによる学校の枠を越えた学びの推進事業」に取り組み、地域を学び場とした PBL 活動を推進します。
○外部講師を招き、探究活動やキャリア学習を進めています。
（三重大学、皇學館大学、県立看護大学等からの講師）

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	９人	１８人	３人	３人	２３４人
４７人	１５４人					

令和４年度　伊勢高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

「生徒、保護者、地域の期待に応え、信頼される魅力ある進学校」

〇高い志を抱いて、社会に貢献できる人を育てます。
〇自己の実現のために、自ら学び、考え、行動し、粘り強く努力する人を育てます。
〇知的探究心にあふれ、情操豊かで創造性に富んだ人を育てます。

２　学校の特色　（普通科６学級+国際科学コース１学級）

本校の教育方針は、「生徒個々の自立を促し、知的探究心に溢れた、情操豊かで行動力のある人間を育てる」ことにあります。校章の３つの菱形は「知識、情操、行動」の円満な人間形成を表しています。

◎人間形成の場として

〇自主自律の精神と自由な校風です。自ら考え、自らの行動を厳しく律してこそ自由を謳歌できることを学び取ることができます。
〇体育祭、文化祭、コーラス大会、球技大会など多彩で盛り上がる行事があります。
〇担任との面談週間が年４回あり、学習・進路・生活面のサポート、補習・課外授業等教科のサポートも充実しています。

◎充実した学習指導

本校の教育の基本は「授業第一主義」です。「毎日の真剣な授業の積み重ねこそが真の学力になり得る」をモットーとし、生徒と教員が一体となって真剣に授業に取り組んでいます。また、45 分の７限とすることで、国語・数学・英語の３教科はほぼ毎日授業があり、基礎学力の定着に効果をあげています。

〇普通科のみで、各学年７クラスと**南勢志摩地域では最大規模の県立高校**です。
〇令和３年度入試での国公立大学現役合格者延べ数は、東大１名、京大３名、医学部医学科６名などの**難関大学・学部を含め 149 名**でした。また、地元の三重大は 50 名でした。
〇過去３年間では陸上競技、弓道、軟式野球、バドミントン、卓球、囲碁、競技かるた、茶道、文芸の各部が県代表として活躍するなど**部活動も盛んな学校**です。
〇「学校の雰囲気がよく、楽しい」と思う生徒が 90%を超える、満足度の高い学校です。
〇文部科学省から**スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）**の指定を受け、１１年目の取組をしています。科学技術に携わる人材育成から、幅広く探究的に物事をとらえ、学問に生かす活動をしています。
※令和３年度「日本学生科学賞」で最高賞の**内閣総理大臣状賞**を受賞。**国際コンクールでも３位入賞。科学の甲子園全国大会出場。**

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	1 人	5 人	0 人	27 人	276 人
137 人	106 人					

令和４年度　伊勢工業高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像　　活気ある工業高校　「高志」ある生徒

地元企業の基盤を支える技術者の育成を軸に、一人ひとりの生徒が望む進路の完全保障を実現する工業高校

・基本的生活習慣を着実に身につけた、社会常識のある明るく素直で積極的な生徒の育成（ひとづくり）
・産業界から求められる確かな技術・技能を身につけようと意欲に満ちて励む生徒の育成（ものづくり）
・自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒の育成

２　学校の特色　（機械科２学級＋建築科１学級＋電気科１学級）

明治 29 年（1896 年）造船技術を学ぶ「大湊工業補習学校」として開校以来、百二十五年を超える歴史と伝統をもち、卒業生は１万５千人を超え、今までに地元企業を中心に産業界に数多くの有為な人材を輩出しています。求人数は卒業予定者数の約８倍あり、南勢地区唯一の工業高校として地元企業から人材を求められる学校となっています。

近年の急速な技術革新の進展や情報化等、大きな社会の変化に応じて求められる知識や技術を十分に把握しながら、生徒が専門的な技術・技能を習得し「課題解決力」を備えた意欲的な生徒を育んでいます。

卒業後に企業に求められる資質・能力を育成するため、実験・実習などは 10 人で 1 班の少人数指導を実施し、一人ひとりの能力・適性に応じた教科指導を行っています。生徒の「ものづくり」の視野を広げるため、学校が各種資格取得に向けた学習ができるよう体制づくりに努めて、各科でスペシャリストを育成しています。その中で生徒も「高志」を抱き挑戦して結果を残しています。

令和３年度より地域で「高校生工務店」として活動を始め、地域の「困りごと」を工業高校生が「ものづくり」で解決しています。これは、伊勢志摩地域の各種団体等が困っている案件（困りごと）を、各科の生徒が協働して「ものづくり」の観点から課題を見出し、試行錯誤し、解決策を見出す活動です。この活動を通して、生徒の「ひとづくり」も達成しています。

部活動も盛んで、全校生徒の約 80％が 11 の運動部、7 の文化部に所属して活動をしています。運動部は、毎年県高校総体において総合成績は上位に入っています。硬式野球部、ソフトテニス部、レスリング部、陸上競技部、バスケット部、バレー部、卓球部、サッカー部、バドミントン部、剣道部、弓道部を始めとする各クラブが県内の大会において顕著な成績を残しています。

文化系では、ロボット部、機械研究部、建築研究部、電気研究部の工業高校の特色を活かした部活動に加えて、吹奏楽部、茶道部、美術部、調理同好会があります。

進路実績は、おおよそ８割が就職し、伊勢志摩地域、三重県、東海地方と、この地域でものつくりの担うスペシャリストとして活躍しています。

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	２人	２１人	１１９人	５人	１５９人
０人	１２人					

令和４年度　宇治山田商業高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす姿

○「健康明朗・自律協同・誠実勤勉」の校訓のもと、人生の基礎となる力（「志」と「専門性」）を育む学校

２　学校の特色　（商業科２学級+情報処理科１学級+国際科１学級）

1908（明治 41）年創立、114 年目を迎える伝統校です。

文武両道で「就職・進学ともに強い」これが山商の特色です。３つの学科を有し、生徒が勉強、学校行事、部活動等に全力で打ち込める環境が整っており、充実した高校生活と多様な進路実現ができる学校です。最新パソコン完備の６つの教室やＬＬ教室などの充実した学習環境に加え、専用の硬式野球場や４００ｍトラック、６面のテニスコート、屋根付き雨天運動場など、全国に誇る運動施設が完備されています。

【各学科の特色】

共通科目に加え、情報化やグローバル化の進展に対応するために商業専門科目を学習しています。各学科２年生よりコース制となり、目指す進路や興味・関心などによって２つのコースから選択し、より専門的な学習を行います。

≪商業科≫

商業に関する幅広い知識と技術を習得し、より専門的な知識や技術を備えた人材を育成します。

≪情報処理科≫

進展する情報化社会において、情報を処理・分析し、情報機器を活用した業務改善が提案できる人材を育成します。

≪国際科≫

多角的な英語の授業によって実践的なコミュニケーション能力を身につけ、将来、国際ビジネスで活躍できる人材を育成します。

【活発な部活動】

ほとんどの生徒が部活動に取組んでおり、運動部・文化部ともに活発に活動し、多くの部が全国レベルの成果をあげています。

【グローバルな活動】

姉妹校であるオーストラリア、モンバルク・カレッジと交換留学を行っています。新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度はオンラインにて実施しました。

みえグローカル学生大使として県内の観光地で英語ガイドを実施しています。

【探求型活動】

課題研究の授業では、自分たちのテーマを設定し、商品開発やネットショップ運営、行政と連携した探究的な学習に取組んでいます。

また、東北大学と連携した地域活性化につながる「未来創造プロジェクト」にも参加するなど、他の機関との連携した学びの場にも積極的に参加しています。

商業高校といえば卒業したら就職のイメージが強いと思います。しかし、山商は国公立をはじめ難関私大にも多数の合格者を出しており、進学にも強い学校です。就職も変わらない強さで地元企業から国家公務員まで様々な分野で内定をいただいています。

文武両道を通じて得た人間性や高度な資格・技術を武器に、多くの卒業生が多方面で活躍しています。

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	１２人	５０人	５２人 （うち公務員８）	２人	１９８人
６人	７６人					

令和４年度　明野高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

専門高校としての強みを活かし、専門的知識・技能の習得に取り組むとともに、農業、衣・食、福祉の分野で地域のさまざまな主体との連携を図り、地域に貢献する学校。

２　学校の特色　（生産科学科+食品科学科+生活教養科+福祉科）

本校は、創立以来 140 有余年という長い歴史を有し、農業関係学科と家庭関係学科を中心に発展してきました。平成 31 年度より農業学科（生産科学科、食品科学科）、家庭学科（生活教養科）、福祉科の 4 学科の募集となり、実学を中心に地域に貢献できる社会人の育成に力を注いでいます。

本校では、広大な敷地と緑豊かな学習環境の中で、課題研究や資格取得を目指して生徒たちが意欲的に学習に取り組んでいます。平成 29 年度から農業生産工程管理ＪＧＡＰ、グローバルＧＡＰ、ＡＳＩＡＧＡＰ等の認証を取得しました。また放課後の部活動や、農業クラブ・家庭クラブなどの活動を通して地域連携に励む生徒など、様々な分野に精力的に取り組み、明るく活気のある生徒がたくさん学んでいます。

＜農業学科＞

生産科学科では食料生産を中心とした　農業生産に関する知識や技術を習得するとともに、現代の農業・農業関連産業を支え、農業の各分野で活用できる能力と態度を育成します。

食品科学科では食品の加工・貯蔵・品質管理および食品衛生に関する知識や技術を総合的に学びます。将来食品業界や関連産業で貢献できる人間性豊かな能力と態度を育成します。

＜生活教養科＞

衣・食を中心とした家庭生活に関わる様々な分野の知識や教養を身につけ、健康で豊かな家庭生活を営める力及び生活産業を支える人材を育成します。

（ア）デザインコース

ファッションデザイン・被服製作・課題研究の中で衣生活に関する基礎的・専門的な知識と技術を習得します。作品としてはシャツ、ジャケット、ゆかた、ドレスなどを製作しています。また、家庭科技術検定などの各種検定の取得や地域との交流なども取り入れています。

（イ）調理コース

調理・食品・食文化・課題研究といった授業を通して調理や栄養など食分野の専門知識や基礎的技術の習得をめざします。また外部講師による講習会も多く実施しています。

＜福祉科＞

福祉に関する専門科目を学び、地域の福祉分野で活躍する人材を育成します。

（ア）社会福祉コース　多様化する社会福祉に対応できる福祉の基礎を学習します。

・保育所、障がい者・障がい児、高齢者福祉施設での実習
・福祉系、保育系大学
・短大・専門学校への進学を視野に入れた専門教科の学習

（イ）介護福祉コース　介護のスペシャリストとしての専門知識・技術を修得します

・介護福祉士の国家試験の受験資格取得および介護福祉士国家試験 100％合格（１１年連続）
・地域の高齢者福祉施設での実習による実践的介護技術の修得

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	２６人	５９人	５２人	２人	１５３人
０人	１４人					

令和４年度　南伊勢高校南勢校舎の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

「自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校」

【育みたい生徒像】

○自立に向け、基本的生活習慣と基礎学力を身につけた生徒
○自分の夢を明確にし、希望する進路に向け、自ら努力し続ける生徒
○自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒

２　学校の特色　（普通科※度会校舎と合わせて２学級）

本校舎は伊勢志摩国立公園内のリアス海岸沿いに立地し、夕暮れ時は教室からオレンジ色に染まる五ヶ所湾がみえるロケーションにあります。小規模校であることをメリットに、よくまとまり、アットホームな雰囲気の中で、明るく伸び伸びと高校生活を送っています。

通学は主にバスを使用しています。隣接する志摩市(磯部駅)から約 25 分、伊勢市(伊勢市駅)からは約 50 分で通学が可能です。

【コースについて】

2 年生から「地域創生アドバンスコース」と「ベーシックコース」の 2 コースに分かれて授業を行います。少人数で授業を受けることができ、学力をつけることができます。

①**「地域創生アドバンスコース」**…地域創生を担う人材の育成を目的とし、大学・短大高等看護学校等への進学、および公務員を目指すコースです。

②**「ベーシックコース」**…就職時や専門学校での学習に不可欠な学力を身につけられるよう、基礎的な内容をしっかり学習するコースです。

※コース共通選択科目…地元食材を使った実習や福祉関係のことを体験学習する「地域と生活」、ヨットハーバーでディンギー(小型ヨット)の操船を習得する「スポーツＶ」、自己理解・自己成長ができ、社会性を養う「インターンシップ」も開設しています。

※令和 4 年度入学生からコース分けを行いませんが、選択幅の広いカリキュラムを設定しています。

「本校は『地域社会との連携・協働』を大切にしています！」

○南伊勢町・地域産業界・大学等と連携し、「地域創生」に係る授業を開設し、町長・大学教授等による講話やフィールドワーク、インターンシップ等を通じ、地域リーダー育成を目指します。

○地域や三重大学等と連携した様々な防災教育や啓発活動を実践。平成 30 年度に学校ではじめて「みえの防災大賞」受賞。令和元年度に消防庁の防災まちづくり大賞「消防庁長官賞」を受賞。

○高校生とまちがコラボレーションし、その土地ならではの新たなビジネスを創り出す「地域ビジネス創出プロジェクト(SBP)」を推進しています。

※「SBP」は本校舎が発祥です。

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	０人	０人	２人	０人	５人
０人	３人					

令和４年度　南伊勢高校度会校舎の特色と取組について

１　基本理念

◎めざす学校像

自らの力で自分の将来を切り開き、地域社会に貢献する“ひと”を育成する学校

【求める生徒像】　志を高く 、目的意識をもって勉学に励もうとする生徒

☆本校は地域の人々や地域の歴史・文化・産業との連携を深める中で、他者の人権を尊重し、高齢者・身体の不自由な人々をいたわり、相互に理解し合うことができる、調和のとれた人間形成をめざしています。

２　学校の特色　（普通科※南勢校舎と合わせて２学級）

【本校の特色ある学習内容】

１．度会町社会福祉協議会との交流「福祉体験学習」「クリスマス会」等
２．特別支援学校との交流「総合的な探究の時間での交流」
３．環境ボランティア活動「地域清掃（草刈り、ゴミ・空き缶拾い）」
４．様々な体験講座「茶摘み」「心肺蘇生法」「交通安全教室」等
５．様々な講演会「人権教育・健康・進路・環境問題・ボランティア」等
６．中学校との交流「中学校訪問」「高校生活入門講座」「進路説明会」等
７．ケアハウスとの交流「納涼祭、出前図書館、文化祭、総合的な探究の時間での交流」
８．森林組合での体験・交流「総合的な探究の時間での体験・交流」

本校では、以上のような体験的・課題解決的な授業を地元の皆様の支援をいただきながら行い、これからの社会を生き抜く力の育成に取り組んでいます。

度会校舎は、一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな教育を大切にしています。また恵まれた自然環境の中で、地域の方々や関係機関と連携した様々な取組を通して生徒の心を豊かに育むことも大切にしています。そういったことが、学習活動・部活動の活性化につながっています。学習活動においては、基礎学力の向上、各種資格取得等に成果が現れています。地域に貢献し、地域と支え合う、「安全・安心で潤いのある学校」「社会性を身につけ周囲から信頼される人間の育成」を重点目標に掲げ、他者に共感し、たくましく生き抜く人間として成長することをめざし、生徒・保護者・教職員が共に学び合っている学校です。

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	１人	２２人	３３人	３人	６６人
０人	７人					

令和４年度　鳥羽高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

これからの地域社会をささえる若者が育ち合う学校
～子どもたちが地域の中で生き生きと活躍し、自信と誇りを持って成長する～

２　学校の特色　（総合学科２学級）

鳥羽高校は、100 年を超える歴史と伝統ある学校です。伊勢志摩地域唯一の総合学科として、普通科と専門高校の良さを併せ持った教育活動に取り組んでいます。鳥羽の豊かな自然・文化・歴史に学び、地域から世界へと視野を広げる地域と連携した学びを重視しています。特に、地域研究を行う「鳥羽学」では、観光・ドローン基礎操縦・ＶＲ基礎技術を学び、地域の魅力発信を行うことで、思考・判断・表現力など新しい社会を生き抜いていくための能力の育成に力を入れています。

３　総合学科４系列の特色

◆　**観光ビジネス系列【企業の即戦力を目指す】**
情報処理やビジネスの基本、観光地鳥羽の魅力、「鳥羽高生が自ら企画する」商品開発などを学ぶことにより、地域の活性化に貢献できる力を身につけます。

◆　**総合福祉系列【福祉のスペシャリストを目指す】**
福祉・保育施設等での体験実習、高齢者などへの援助の方法などを学び、相手の立場に立って考え行動できる「福祉の心」を身につけるとともに、介護職員初任者研修の資格取得を目指します。

◆　**スポーツ健康系列【地域のスポーツ振興を目指す】**
海に近い地域の特性を活かしたマリンスポーツや、生涯スポーツを中心に、スポーツ全般について学び、健康で明るく豊かな生活を営むための能力や態度を身につけます。

◆　**文理国際系列【上級学校への進学を目指す】**
少人数講座が多く、一人ひとりの学習状況・進路希望に応じた学習環境で学びます。進学するための基礎的な学力から進学後に必要な発展的な学力まで、幅広く身につけます。

４　地域連携

＜授業での連携＞

・デュアルシステム・インターンシップ
・地域学「鳥羽学」（ドローン基礎操縦、ＶＲ基礎操作など）
・スポーツ系授業（つり、ゴルフなど）
・異校種連携（幼稚園・小中学校出前講座など）
・部活動等連携（フェンシング出前講座、とばっこ（地域の魅力発信）など）

＜その他＞

・ほっとばカフェ（学校居場所づくり）
・学校応援団（学校活性化）

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	２人	７人	３８人	２人	５０人
０人	１人					

令和４年度　志摩高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

○「自律・協調・敬愛」の校訓のもと、生徒一人ひとりの希望がかなう確かな進路実現に向けて、「チーム志摩高」として教職員が一丸となって取り組む学校

○志摩地域唯一の普通科高校として、地域と連携・協働し、地域に貢献し、地域に愛され、地域ともにある学校

２　学校の特色　（普通科２学級）

①　地域連携型キャリア教育の推進

在校生の約 90%が志摩市内の中学校出身という極めて地域性の高い学校であるため、志摩市について深く学ぶ総合的な探究の時間「志摩学」を、志摩市のバックアップを受けて実施しています。志摩学では講話やインタビュー、フィールドワーク等を通して志摩市の現状や課題を理解するとともに、志摩市の将来について地域の方々と一緒に考え、提案を行う取組を行っています。

②　充実した学習サポート

全学年において、基礎からしっかり学びたい生徒には学び直しの学習、進学に向けて発展的な内容を学びたい生徒には進学補充学習の実施等、多様な生徒のニーズに応える学習サポートを丁寧に行っており、着実に学力を伸長させています。

また、2 年次からは卒業後の進路目標に合わせ、次の 3 つのコースに分かれて学習しています。

国際(特別進学)コース…四年制大学等への進学を目指して受験対応の学習する
情報事務コース……就職を目指し、資格取得にもチャレンジする
教養一般コース……目的に応じて科目を選び、目標に応じた学習をする

③　地域と関わった自主活動・クラブ活動

志摩ハイスクールパトロール「AfterＧ７」を組織し、鳥羽警察署と連携して地域で防犯活動や交通安全を呼びかける活動を行っています。また、子どもたちがサッカーに親しむ「キッズサッカーフェスティバル」をサッカー部が実施したり、家庭部、ボランティア部、華道部が地域のイベントに協力・参加したりするなど、地域と密着した自主活動・クラブ活動を展開しています。数年前から、商店街のシャッターペイントや志摩市のイベントのポスターや看板のデザイン作成等、地域から美術部へのリクエストが増えています。

３　クラブ活動等の主な実績

・相撲競技　令和元年度　三重県高等学校総合体育大会　団体優勝
　　令和４年度　三重県高等学校総合体育大会　80kg 級個人優勝
・美術部　　令和２年度　高校生国際美術展　最優秀校賞
　　令和３年度　アート甲子園　グランプリ

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	１１人	２４人	３５人	９人	９９人
０人	２０人					

令和４年度　水産高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

「かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」というスローガンのもと、「学力の定着・向上」「希望進路の実現」「豊かな心の育成」を中心に生徒を育成し、社会から信頼され必要とされる学校

２　学校の特色　（海洋機関科+水産資源科）

県内唯一の水産関連学科であることを生かし、特色ある教育活動を実施しています。

○実習船「しろちどり」による長期航海実習
○海洋環境調査や大型魚貝類の放流など水産資源についての貢献活動
○ダイビングなどのマリンスポーツについての学習
○ディーゼルやガソリン等の各機関や機械等の構造、作動、取扱いについての学習
○金属材料や機械製図、機械加工等についての学習
○小型船舶操縦士、ボイラー技士、電気工事士、危険物取扱者等の資格取得
○魚介類の養殖や繁殖保護、魚介類に関する食品加工、真珠等の宝飾加工についての学習。また、５級海技士（航海・機関）の養成施設の指定を受けているため、５級海技士の筆記試験が免除されます。
○大型漁船や貨物船の船長・機関長、士官となるために必要な上級海技士免状の取得を目指す漁業専攻科・機関専攻科（各２年）も設置しています。

＜海洋コース＞

航海や海に関する知識・技術を習得し、海技士（航海）・１級小型船舶操縦士の資格を取得し、水産業界をはじめとする各産業界や地域に貢献できる、船舶の操船に関するスペシャリストを養成します。

＜機関コース＞

約３ヶ月の航海実習を実施し、大型船の機関士をめざすために必要な知識や技術の習得を目標とします。併せてボイラー技士等の資格を取得し、水産業界や地域に貢献できる人材を育成します。

＜水産工学コース＞

ディーゼルエンジン・ボイラー等の構造・取扱い、機械材料・機械製図・機械加工等を学びます。また、ボイラー技士等の資格を取得し、水産業界や地域に貢献できる人材や、大学進学にも力を入れ、将来水産教育の指導者を育成します。

＜アクアフードコース＞

乾製品、ねり製品、缶・ビン詰等の水産加工についての実習を行い、水産食品の品質管理や安全管理の知識・技術を習得するとともに、流通についても学習し、調理を含めた食に関する学習を行います。また、ボイラー技士等の資格を取得し、水産業界や地域に貢献できる人材や、大学進学にも力を入れ、将来の水産教育の指導者を育成します。

＜アクアデザインコース＞

海洋環境や海洋生物について学習し、海洋生物の種苗生産や飼育管理、アクアリウム（水槽での飼育・展示）の設計について実習を行います。地域産業である真珠養殖についても学習し、知識・技術を習得します。また、ボイラー技士等の資格を取得し、水産業界や地域に貢献できる人材や、大学進学にも力を入れ、将来の水産教育の指導者を育成します。

※参考：令和３年度卒業生の進路

大学		短大	専門学校等	専攻科進学	就職	合計
国公立	私立	０人	９人	２０人	３８人	６９人
０人	２人					

令和４年度　伊勢まなび高校の基本理念と特色等について

１　基本理念

◎めざす学校像

○生徒が安心して楽しく学べる学校
○生徒が学びたい内容を自分のペースにあわせて学べる学校
○生徒が社会に出て自立できる力を身につけられる学校

２　学校の特色

(1) ３部制の定時制高校として

普通科の「午前の部」と「午後の部」、ものづくり工学科（工業科）の「夜間部」の 3 部からなる定時制高校です。12 限（8:50～20:55）の授業を 4 限ずつに分け、午前の部として 1～4 限の授業を、午後の部として 5～8 限の授業を、夜間部として 9～12 限の授業を行っています。

(2) 単位制の高校として

単位制の本校には、「進級」や「原級留置」という考え方がありません。定められた 74 単位以上の科目を修得すれば、卒業が可能です。また、定時制の高校は、本来 4 年間で卒業することを想定していますが、本校では、自分の所属する部の授業以外に他の部の授業を受け、74 単位以上の科目を修得すれば、3 年間で卒業すること（三修制）も可能です。

一方、必履修科目以外に、本校独自の「手話」「ペン習字」「コミュニケーション学習」「地域産業」等、多様な選択科目を設定しています。また、高等学校卒業程度認定試験合格科目、技能審査に関する学修、通信制課程での修得単位（定通併修）等、学校外での学修を本校の卒業単位とすることもできます。

(3) 通級による指導の、県内最初の実施高校として

本校には、不登校や他校を退学した経験がある生徒、家庭的・経済的に困難さがある生徒、発達障がい等の障がいがある生徒等、特別な支援を必要とする生徒が数多く在籍しています。そこで、これらの生徒を支援するため、少人数のクラス編成やティーム・ティーチングの実施、特別支援教育の推進等に取り組んでいます。

特に、発達障がいがある生徒については、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服することを目的に、なかでも、社会で自立するために必要な力やコミュニケーション能力等を高めるため、通級による指導を実施しています。なお、本校の通級による指導は、多くの小中学校で行われている、教科の遅れを取り戻す学力補充のための取り出し授業とは異なります。

※参考：令和３年度卒業生の進路

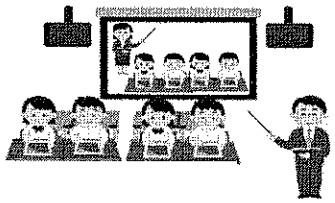
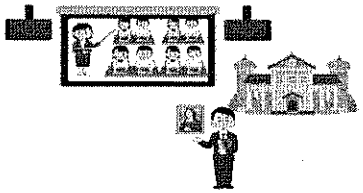
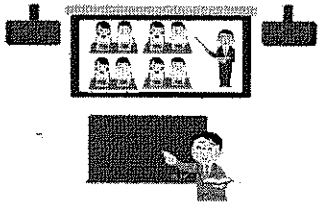
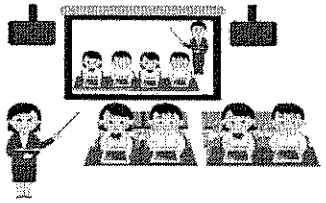
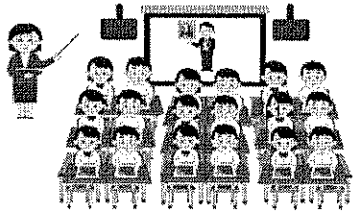
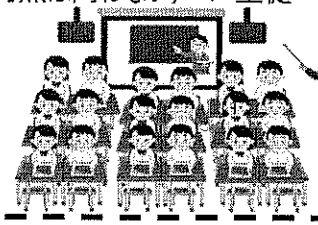
大学		短大	専門学校等	就職	その他	合計
国公立	私立	0 人	3 人	17 人	9 人	29 人
0 人	0 人					

高等学校における遠隔授業［教科・科目充実型］

（1）遠隔授業［教科・科目充実型］の制度化

○　平成27年４月より、高等学校の全日制・定時制課程における**遠隔授業［教科・科目充実型］を正規の授業として制度化**し、対面により行う授業と同等の教育効果を有するとき、**受信側に当該教科の免許状を持った教員がいなくても、同時双方向型の遠隔授業を行うことができる**こととしている。

○　これにより、高等学校段階において、先進的な内容の学校設定科目や相当免許状を有する教師が少ない科目（第二外国語等）の開設、小規模校等における幅広い選択科目の開設等、**生徒の多様な科目選択を可能とすること等により、生徒の学習機会の充実**を図る。

	合同授業型	教師支援型	教科・科目充実型
	➢ 児童生徒が多様な意見や考えに触れたり、協働して学習に取り組んだりする機会の充実を図る。	➢ 児童生徒の学習活動の質を高めるとともに、教員の資質向上を図る。	※高等学校段階のみ ➢ 生徒の多様な科目選択を可能とすることなどにより、学習機会の充実を図る。
送信側	教師 ＋ 児童生徒	ALTや専門家等	当該教科の免許状を保有する教師
			
	同時双方向	同時双方向	
受信側	教師 ＋ 児童生徒	教師 ＋ 児童生徒	当該学校の教師（当該教科の免許状の有無は問わない） ＋ 生徒
			

参考資料１

高等学校における遠隔授業［教科・科目充実型］

（２）遠隔授業［教科・科目充実型］を行う際の主な留意事項

生徒数	・同時に授業を受ける生徒数は、原則として40人以下とすること。
配信側	・受信側の高等学校等（生徒の在籍する高等学校等）の身分を有すること。 ・学校種や教科等に応じた相当の免許状を有すること。
受信側	・原則として**教員を配置するべき**であること。 ※ただし、病室等において病気療養中の生徒等に対して遠隔授業を行う場合には、教員配置は必ずしも要しない （その場合には、病室等での適切な体制整備が必要）
学習評価	・単位認定等の評価は、配信側の教員が行うべきであること。（受信側教員はそれに協力）
その他	・遠隔授業を行う教科・科目等の特質に応じ、**対面により行う授業を相当の時間数行う**こと。 ・**36単位を上限**とすること。 ※ただし、病室等において病気療養中の生徒等に対して遠隔授業を行う場合には、単位数上限の算定には含めない ※※主として対面により授業を実施するものは単位数上限の算定に含めない

（３）病気療養中の生徒等に対して行う場合の要件緩和

○　病室等における**病気療養中の生徒等に対し同時双方向型の遠隔授業を行う場合の特例**として、令和元年11月には**受信側の病室等に当該高等学校等の教員を配置することは必ずしも要しない**こととするとともに、令和２年４月には**修得単位数の上限（36単位）の算定に含めない**こととする制度改正を実施。

（参考）関係法令抜粋

■学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）

第88条の３　高等学校は、文部科学大臣が別に定めるところにより、授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させることができる。

第96条　校長は、生徒の高等学校の全課程の修了を認めるに当たっては、高等学校学習指導要領の定めるところにより、74単位以上を修得した者について行わなければならない。ただし、（略）

２　前項前段の規定により全課程の修了の要件として修得すべき74単位のうち、第88条の３に規定する単位数は36単位を超えないものとする。ただし、疾病による療養のため又は障害のため、病院その他の適当な場所で医療の提供その他の支援を受ける必要がある生徒であつて、相当の期間高等学校を欠席すると認められるものについては、この限りでない。

参考資料２

令和２～３年度協議会での意見

１．これからの県立高校生にはどのような力や学びが必要か。

【県立高等学校活性化計画の記述】（計画Ｐ６等参照）

○　自分の興味や関心、いま学んでいることと将来とのつながりを意識しながら自己の生き方や進路について主体的に考え、行動していくことのできる力を育む学び

○　つまずきや失敗など困難な状況に際して、周りからの支援も得ながら、しなやかに対応していくことのできる力を育む学び

○　基礎的・基本的な知識・技能等の習得を基礎としながら、教科横断的な視点から創造的・論理的に考えることのできる力を育む学び

○　自他の生命を尊重する心や思いやりの心、規範意識などを身につけ、他者とともによりよく生きようとする態度

○　自分の考えを持ち、他者の意見を受けとめ、課題解決に向け、協働してよりよい方策を見出していくことのできる力

【協議会で出された主な意見】

○　三重県の県立高校においては、新学習指導要領にある「生きる力」、及び三重県教育ビジョンにある「生き抜く力」が各校に共通する育みたい力であると言える。加えて職業高校においては「社会の一員として働ける力」や「一生学び続ける向上心」を養うことが大切である。（R2、第１回）

○　地域への愛着心を育ててもらいたい。高校生が地域について学習して愛着心をもつことで、卒業後に進学や就職で一度地元を離れても、いつか地元に帰ってきたいという思いを育てることが大切である。（R2、第１回）

○　小中学生だけでなく、高校生も学校の授業の中で社会での実体験を積むことによって学びが広がり、将来職業を主体的に選択できる意識を育むことができる。（R2、第１回）

○　地域の子どもたちに、ふるさとを大切にするという意識を育んだうえで、この自然豊かな伊勢志摩地域の産業を如何にビジネスに変えて地域を発展させていくかを考えるような、将来の伊勢志摩地域のリーダーを地域全体で育てていく意識を共有していくべきである。（R3、第１回）

○　地場産業を含め、様々な職業をもっと身近に感じることのできるキャリア教育を進める必要がある。（R3、第１回）

○　この地域の中で小学校から郷土愛を育てながら、高校でも地域を学ぶことによって愛着心を育成していくことが必要である。そのためには小規模校で実践している地域課題解決型学習を、大学進学をめざす高校でも学ぶプログラムをつくるべきである。（R3、第２回）

○　小規模校が実践してきた地域学習が、たとえば「伊勢志摩学」として、地元愛を育てる特色ある地域の教育としてこの地域に残していくことはできないか。（R3、第２回）

○　地域に与える経済的影響や伊勢志摩地域の第１次産業を担う生徒の育成といった視点も大切にする必要がある。（R3、第２回）

これからの伊勢志摩地域の子どもたちには、変化の激しい時代を生き抜いていく力を育むとともに、地域への愛着心を養いながら地域課題に取り組む学習等を通じて、将来、地域の担い手となるような人材を育成することが大切である。

２．今後の生徒減に伴い地域の高校について協議するにあたって、大切にすべきことや配慮すべきことについて

【県立高等学校活性化計画の記述】（計画 P19 参照）

○　15 年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で１学年３学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。

○　こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。

【協議会で出された主な意見】

○　道路事情が改善して広い地域からの通学が可能となったため、現状では伊勢志摩地域全体が一つの通学圏内としてとらえることができる。（R2、第２回）

○　専門学科の学びは魅力も高く、地域にとっても必要不可欠なものであり、なくすことができないものである。（R2、第２回）

○　伊勢志摩地域の県立高校のあり方を考えるにあたっては、中学生やその保護者の目線を大切にしながら、子どもたちが幸せな将来を創るための力をつけることができるような各学校の魅力を中学生に伝えることが重要になってくる。（R3、第１回）

○　少子化の中でも高校には多様な生徒のニーズに応える必要があり、地域の子どもたちの学びを保証するためにも、１学級 40 人の枠を柔軟に運用したり、ＩＣＴをうまく活用したりするなど、今後も様々な工夫を考えるべきである。（R3、第１回）

○　地域の高校のあり方を議論していくにあたり、子どもたちの学びが保障されることが大切である。（R3、第２回）

○　今まで培ってきた小規模校の学びの継承については、たとえばＩＣＴを活用した通信制課程で学びを保障していくなど、今後は協議会でも様々なアイデアを出し合い、課題を解決していかなければならない。（R3、第２回）

○　小規模校が実践してきた地域学習が、たとえば「伊勢志摩学」として、地元愛を育てる特色ある地域の教育としてこの地域に残していくことはできないか。
（R3、第２回）

○　高校の再編統合を考える際には、生徒の通学の可否を交通機関の状態を考慮に入れながら、適切な場所へ高校を配置することが重要となる。（R3、第２回）

○　基礎学力の定着や通学困難生徒への対応、少人数教育による丁寧な指導など、これまで小規模校が担ってきた役割を、「誰一人取り残さない」という視点に立って、今

後の地域の高校の再編統合後も継承していく必要がある。(R3、第２回)

○　小規模校では多様な学びの保障は難しいが、一人ひとりへの丁寧な指導によって、生徒の自己肯定感を高め、学校生活の満足度は高くなる傾向にある。(R3、第２回)

○　当地域の高校の再編統合を進めるにあたっては、水産学科の学びは県内唯一の学科であること、地域に少ない総合学科の学びを維持していくこと等は大切な視点である。(R3、第２回)

○　伊勢志摩地域の高校の全体像を考えるにあたっては、地域の県立高校普通科のあり方も重要な要素となってくる。(R3、第２回)

これからの地域の高校を協議するにあたって、大切にすべきことや配慮すべきことは
①生徒や保護者の多様なニーズに対応するための工夫
②ＩＣＴを活用した学習、学び直しをはじめ一人ひとりへの丁寧な指導
③生徒の通学状況を考慮に入れた高校配置
④これまで培ってきた地域と連携した学びの継続　　などである。

３．今後の生徒減に対応した県立高等学校の配置の考え方について

【協議会で出された主な意見】

（令和２年度の協議）

○　地域の高校は活性化に取り組んで魅力ある学校づくりを進めており、それぞれの高校には多様な個性や幅広い学力に対応するなど、それぞれが果たす役割や存在価値がある。(R2、第１回)

○　伊勢市内の専門学科設置校の３校は、来年度にはすべて１学年４学級規模となるが、これ以上の小規模化は教員数をはじめとする専門性や多種類の部活動の維持などに影響を及ぼし、学校全体の活力がなくなると危機感を感じている。専門学科設置校の再編・統合を視野に入れるなど、伊勢市内の高校のあり方も検討するべきと考える。(R2、第１回)

○　地域の小規模校は地域の活性化にも貢献しており、地域にはなくてはならない存在である。40 人以下の学級編成やＩＣＴ機器の活用などの工夫をすることによって、小規模校の維持・存続を図ってほしい。(R2、第２回)

○　鳥羽・志摩・度会地域の各小規模校はいずれも定員を満たしていない現状ではあるが、今後５年から 10 年の間はまだその役割は残されている。小規模校の再編統合が進めば、この地域の高校の配置が伊勢市に集中してしまうことが想定されるが、果たしてその状況があるべき姿であるか疑問が残る。(R2、第２回)

○　水産高校では地域の水産業と密着した専門的な学習や全国的なレベルでの資格取得において成果をあげたり、志摩高校でも地域医療と連携した学習を行ったりするなど、地域の中に高校がある意味は大きい。今後の生徒減の予測からは、どこかの学校が再編統合されるのは致し方ないのかもしれないが、40 人にこだわらない学級定員とするなどの工夫で小規模校を維持してもらいたい。(R2、第２回)

○　今後の伊勢志摩地域の状況を考えると、高校の再編統合を検討していく時期に差し掛かっていると思われるが、それが単なる数合わせのための再編統合ではなく、も

っと大きな視点をもって地域の高校の配置や教育内容を深く考えていくべきである。（R2、第２回）

○　活性化の取組により小規模校の魅力が向上していることは理解できるが、地元中学から地域の小規模校への進学率が低いまま伸び悩んでいることを考えると、現実的には再編統合を進めていく必要がある。（R2、第２回）

○　高校現場からの視点で考えると、教育の質の確保のためには一定の規模が必要であり、小規模化することによる高校の魅力低下は避けられない。伊勢志摩地域全体を一つの地域として考えたうえで、それぞれの県立高校の魅力を高めることが必要である。（R2、第２回）

（令和３年度の協議）

○　今後は小規模校における地域と一体となった学習活動の成果を活かしつつ、再編統合によって、伊勢志摩地域全体で地域の子どもたちの教育を考えていくことが必要である。（R3、第１回）

○　子どもたちの数が激減していく中で、この地域の高校をどのように変えていくのかについて、現実的で具体的な議論をしていくべきと考える。（R3、第１回）

○　小規模校の取組や教育内容は素晴らしいものの、様々な生徒の学びのニーズに応え、より魅力化するためには、高校には一定の規模が必要である。（R3、第２回）

○　今後も少子化が更に進行していく中、中学生が学びたい、保護者が学ばせたいと思われる高校でなければ生徒は集まらない。伊勢志摩地域の高校を再編統合していくことで、子どもたちの学ぶ環境を整備していく時期に来ているのではないか。（R3、第２回）

○　地域の小規模校の取組は魅力的であると考えるが、入学者の状況から判断すると、子どもたちに選ばれていないのが現実である。高校には子どもたちが希望する学びの選択肢があることが大切であるため、この地域の高校を再編統合していくことはやむを得ないと考える。（R3、第２回）

○　地域では地元の高校と連携、支援をしながら活性化に取り組んできたが、高校側も限られた教職員数では多様な学びに対応できないなど、小規模校がおかれた厳しい状況は理解できるため、今後の少子化が進行していく中では高校の再編統合を検討せざるを得ない。（R3、第２回）

○　これまでの活性化の取組によって、小規模校の魅力化や活性化は進んだが、地元の生徒の進学率が上がらない等の現状から考えると、伊勢志摩地域の高校で再編統合を進めていく方向性は致し方ないと言える。（R3、第２回）

○　高校のあり方に関しては、子どもたちの学びの選択肢を保障していくことが一番重要であるため、今後は伊勢志摩地域の高校の再編統合は必要不可欠である。（R3、第２回）

今後の伊勢志摩地域の中学校卒業者数の減少をふまえると、現在のままの県立高校の配置を続けていくことは難しい。これまでの地域の小規模校の教育内容を活かしつつ、この地域の高校の再編統合を協議していく必要がある。

伊勢志摩地域の高等学校等の学科・コースについて

参考資料３

		学校名	大学科	募集定員（R4）									
伊勢志摩地域全日制課程	県立	宇治山田高校	普通科	200	1280	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科			
	県立	伊勢高校	普通科	280		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	国際科学コース	
	県立	伊勢工業高校	専門学科	160		機械科	機械科	建築科	電気科				
	県立	宇治山田商業高校	専門学科	160		商業科	商業科	情報処理科	国際科				
	県立	明野高校	専門学科	160		生産科学科	食品科学科	生活教養科	福祉科				
	県立	南伊勢高校南勢校舎	普通科	80		普通科	普通科						
	県立	南伊勢高校度会校舎	普通科										
	県立	鳥羽高校	総合学科	80		観光ビジネス、総合福祉 スポーツ健康、文理進学							
	県立	志摩高校	普通科	80		普通科	普通科						
	県立	水産高校	専門学科	80		海洋・機関科	水産資源科						
	私立	皇学館高校	普通科	315	545	普通科：315人、 進学コース・特別進学コース							
	私立	伊勢学園高校	普通科	230		普通科:230人、特別進学コース・選択コース（情報ビジネス・生活デザイン・進学）・看護医療コース							
（参考）松阪地域全日制課程	県立	松阪高校	普通科	280	1000	普通科	普通科	普通科	普通科	普通科	理数科	理数科	
	県立	松阪工業高校	専門学科	200		工業化学科	機械科	繊維デザイン科	自動車科	電気工学科			
	県立	松阪商業高校	専門学科	160		情報ビジネス科	情報ビジネス科	情報ビジネス科	国際ビジネス科				
	県立	相可高校	普通科 専門学科	200		普通科	普通科	生産経済科	環境創造科	食物調理科			
	県立	飯南高校	総合学科	80		郷土・環境、介護福祉 総合進学、コンピュータ							
	県立	昴学園高校	総合学科	80		国際交流、総合スポーツ 美術工芸、生活福祉、環境技術							
	私立	三重高校	普通科	540	540	普通科：540人、進学コース、特進コース、六年制							

伊勢志摩地域
中学校卒業者数
R4.3卒　1,879人

全３２学級
普通科16
専門学科14
（工業4）
（商業4）
（農業2）
（家庭1）
（福祉1）
（水産2）
総合学科 2

松阪地域
中学校卒業者数
R4.3卒　1,844人

全２５学級
普通科9
専門学科12
（工業5）
（商業4）
（農業2）
（家庭1）
総合学科4

○定時制課程　県立　伊勢まなび高校　120 人　普通科：午前の部40人、午後の部40人、モノづくり工学科40人（夜間）

○通信制課程　私立　英心高校　100 人　普通科：（全日型、水曜、土曜の各コース）
私立　代々木高校　800 人　普通科：（通学コース、通信一般コース等）

○高等専門学校国立　鳥羽商船高等学校　120 人　商船学科（40）、情報機械システム工学科（80）